

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

第52号（2021年4月1日）
福津市社会福祉協議会内

◇ 社協、福津市、包括センター等からのお知らせ

◇ 3月の定例会の話題

(1) ふれあいコール関連

- ① 3月の件数は15件でした。
- ② 3月市議会でふれあいコールに関する案予算委員会で可決され（16日）議会で可決されました（29日）。

(2) 癒しの傾聴カフェ、4月のカフェを2日（金）ボランティアセンターで行いました（参加者6名）。

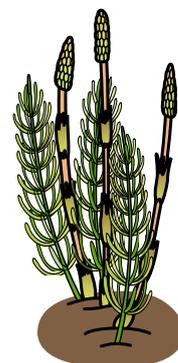
(3) 本日、総会用資料を配付します。

- ① 総会日時は、4月19日（月）14:30から30分程度です。2階わくわくルームです。20日（火）は、ふれあいコールと重なるためです。
- ② 4月定例会は、15時頃から30分程度を予定しています。
- ③ 当日総会に先立ち、13時半から研修（ゲートキーパー）を行います。

(4) 福岡県社会福祉協議会主催の「きずなフェスティバル」は中止されましたが、本日配信されたビデオで内容を研修しました。

(5) スケジュール調整

ふれあいコール関連のみ（◇ 会からのお知らせ中の4項をご覧ください）。



◇ 会員の広場

ホスピスの朱いノートにある祈り	わ	子		
水面下からのコールを待ち詫びる	や	す	こ	
好きだった今日なら言えるクラス会	義	教		
寝ころんで雲の流れと語り合う	の	ぶ	く	に
他人様に支えられつつ生きる日々	海	子		

◇ 会からのお知らせ

3年1月30日夕刊読売新聞に、「10分ふれあいコール」について記事が掲載されました。この記事が、「月刊傾聴ボランティア 令和3年2月号」に転載され紹介されました。

1 夕刊の記事の要旨

- ① 電話を掛けてきた高齢の女性に対してボランティアの女性は、相槌をうったり、健康が一番ですねと、話し掛け15分程耳を傾けた。
- ② 研修を受けた約30人が、十数年前から市内の高齢者施設で活動。しかしコロナ禍で昨年3月以降から活動中止した。
- ③ 8月から市と協働事業として、電話による「10分ふれあいコール」を開始し、メンバー数人が待機し、電話を受けるようになった。
- ④ 昨年8月以降約90件(注:3月末までに114件でした)の電話がありました。利用者は殆どが70歳から80歳代。その日の出来事や家族のこと、介護施設での交流が減って寂しいなど話題は様々である。

2 記事中の「傾聴のポイント」

- ① 相手に寄り添って注意深く聴き、意識を集中させる。
- ② 話を判断、批評せずに、そんな考えもあるんだと受け止める。
- ③ 相手の声や言葉から心の状態を推し量り、対応する。
- ④ タイミングの良い相槌や状況に合った言葉で、話を聴いていますというサインを送る。

3 月刊傾聴ボランティアの同上記事に関するコメント

『記事の内容は、関東版に比べて、こちらの方がフィットしているような気がします。

(注:2月5日の読売新聞東京本社版社会面に、傾聴ボランティアのことが取り上げられ掲載されたようです。)

福岡県福津市の傾聴ボランティアグループ「ほほえみ」は、当協会が講座で指導させて頂いたグループです。紹介されている「傾聴のポイント」も、とても的を得ていると思います。当協会が、普段、お話ししている通です。』

4 皆様へのお願い

当日の取材に際して、記者へは「10分ふれあいコール事前研修資料」を提供しましたので、それを基に上記の「傾聴のポイント」は作成されています。

協会から、ポイントに関して高い評価を受けたことは嬉しい限りです。

この資料はすでに皆様におかれましては学習されていますので、このコールに限らず再開されるであろう施設活動においても資料を再読・復習され自信を持って、現場に臨んで下さい。

